

令和8年度 第1回 いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

ACPを行うきっかけづくり ～ 一緒に考えてくれる人になるために ～

一般社団法人エンドオブライフケア協会 認定ファシリテーター
看護師 社会福祉士 介護支援専門員 鈴木裕美 氏

【令和8年7月23日(木)18:30～20:00 員弁コミュニティプラザ いなべ市・東員町の医療・介護関係者75名】



わかってくれる
人ってどんな人？

◆ ACPの2本柱

- ① Good Life:よりよく生きる
周囲からの協力を得ながら、自らの希望を叶える
- ② Good Death:よりよく逝く
自らの意思が尊重されるエンドオブライフを過ごす

聴くための「3つの約束」

- 1 ノイズを入れない
- 2 語尾は「ね」で終わる
- 3 安心感のある態度で聴く



「これからどうなるかと
思うと心配なんです…」

聴くための3つの約束を意識して…
「これからどうなるかと思うと
心配なんです」



福本委員長

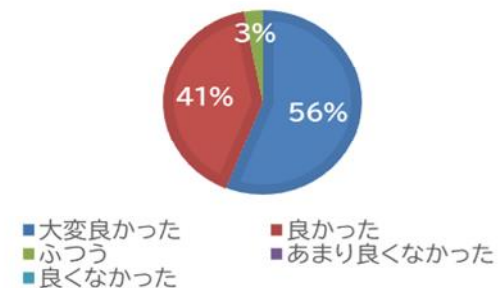
事務局より

研究会へのご参加、アンケートのご協力、ありがとうございました。今回は、「ACPを行うきっかけづくり」をテーマに、ロールプレイやグループワークも取り入れ研究会を行いました。
アンケートでは、「ACPIは大切とわかっていても、目の前の仕事に追われ、ゆっくり考える余裕もなく逃げていたが、ここでもう一度しっかり向き合いたい」「どうしたらACPの話題に持っていけるか悩んでいた。今回の講義でACPを行うきっかけが学べた」などのご意見をいただきました。
今回の研究会の学びを、ぜひ実践の場で活かしていただければと思います。

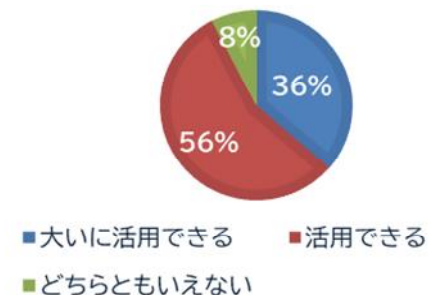


アンケート結果 【回収66名(回収率88%)】

研修会の内容



今後の業務に活用



*アンケートの意見・感想(一部抜粋)

- ・わかっていても悪い聴き方をされると話す意欲が無くなる、良い聴き方が大切であると再認識できた。
- ・ロールプレイを体験し、利用者や家族に対して接し方を振り返り、反省もあった。
- ・悲観的な言葉を発した時も、必ず返事をしなければいけないと思っていた。その人の思いをまず知ることが大切とわかった。